

2021年卒
特別調査

インターンシップに関する調査

キャリアス就活 2021 学生モニター調査結果 (2020年3月発行)

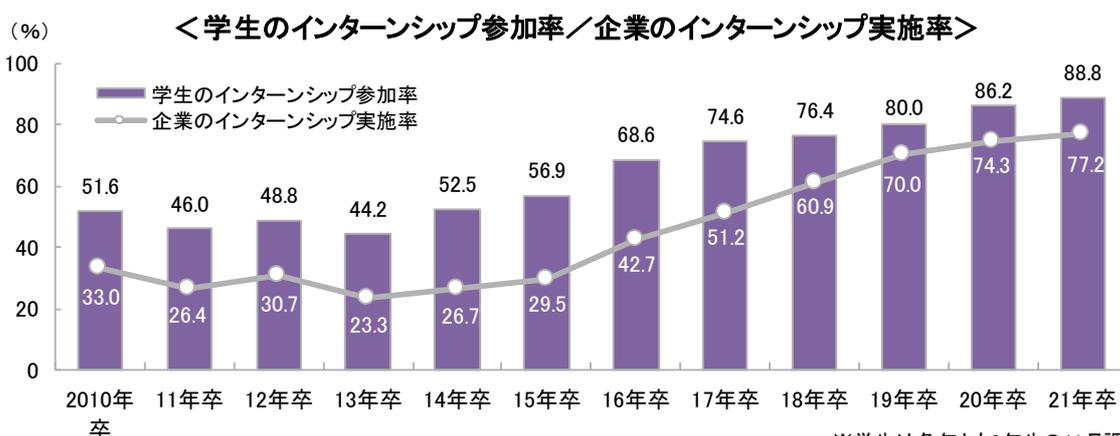
就職活動の入り口として多くの学生が参加するインターンシップ。参加経験を持つ学生は毎年増加し、2021年卒モニター学生の経験率は9割に迫る。

参加した学生の意識や満足度はどうだったのか。また、就職意向にどのような影響があったのだろうか——。参加したインターンシップの内容や感想、参加企業への就職志望度などを調査し、インターンシップの影響について分析・考察した。(*本調査では、1日以内のプログラムもインターンシップとして調査)

【目次】

1. 参加したインターンシップの内容
2. インターンシップ情報を探した時期
3. インターンシップ先を探す際に重視した点
4. インターンシップの満足状況
(参加日数別/プログラム別/社員との接点有無別/成長実感別)
5. インターンシップ参加前後の就職志望度の変化
6. インターンシップ参加企業への就職エントリー
7. インターンシップ参加前の企業研究
8. インターンシップに参加しやすい日程

【参考】



※学生は各年とも3年生の11月調査
※企業の実施率は、3年生時に参加と仮定して作図。2021年卒は2019年度実施

調査概要

調査対象：2021年3月卒業予定の全国の大学3年生（理系は大学院修士課程1年生含む）のうち、1社以上のインターンシップ参加経験者

回答者数：794人（文系男子228人、文系女子241人、理系男子222人、理系女子103人）

調査方法：インターネット調査法

調査期間：2020年3月6日～16日

サンプリング：キャリアス就活2021学生モニター（2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」）

1. 参加したインターンシップの内容

最初に、学生モニターが実際に参加したインターンシップの概要を確認したい。

まず、参加時期を見ると、前年調査に引き続き3年生(修士1年生)の「8月」が最も多い(23.8%)。次に多いのは「2月」だが、割合はやや下がった(21.3%→19.6%)。代わりに「9月」が大きく増加したのが目立つ(13.7%→17.7%)。早い時期の参加が増え、前倒しの傾向が見て取れる。

参加日数は「1日」が最も多く、前年より割合が増えている(37.7%→38.0%)。「半日」の割合も増え(24.0%→26.3%)、1日以内の短期プログラムへの参加が今年も6割強を占める(計64.3%)。

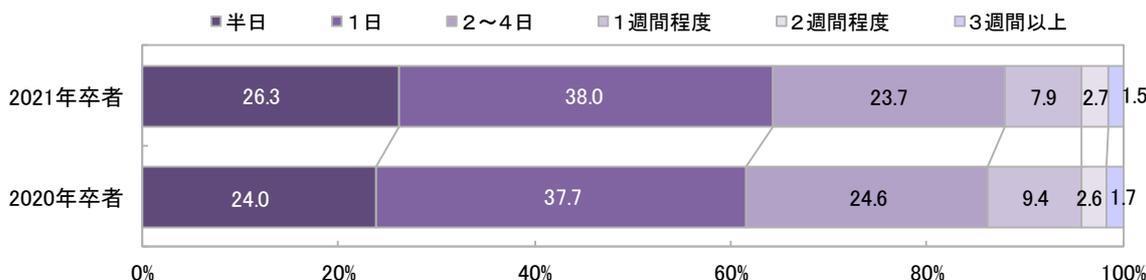
プログラム内容を見ると、「講義・座学」「グループワーク」が8割近くに上り(それぞれ79.7%、76.0%)、大半のインターンシップで行われていることがわかる。「仕事体験」を伴うものは27.3%で、依然としてかなり限られるのが現状だ。

＜参加時期の分布＞

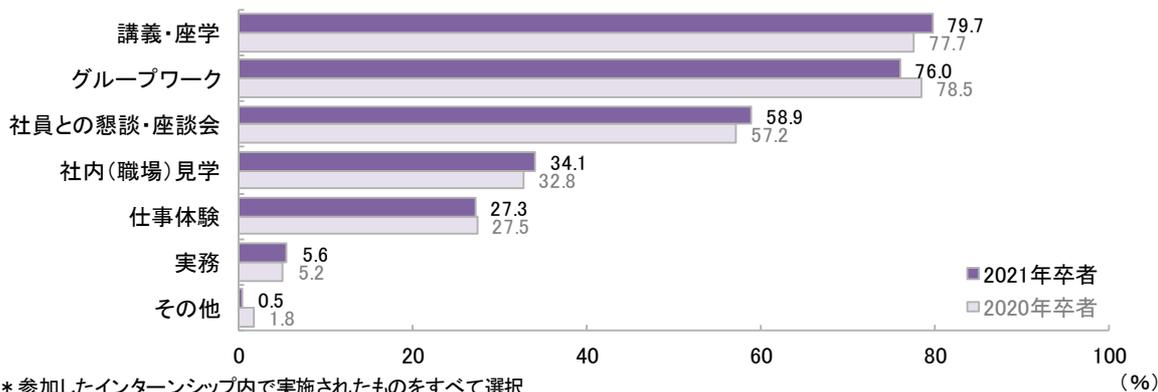


* 合計が100%になるように再集計し、占める割合を算出。以下同じ

＜参加日数＞



＜プログラム内容＞

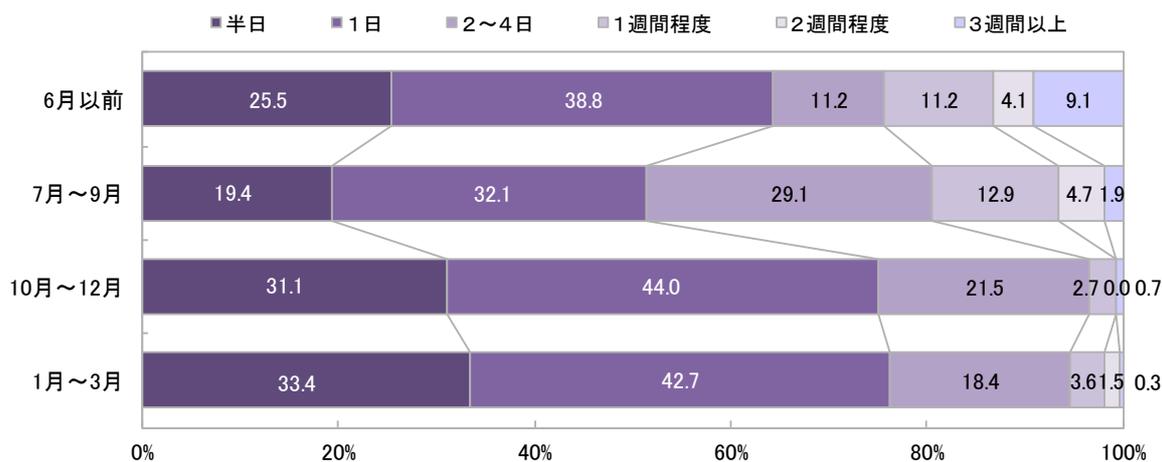


* 参加したインターンシップ内で実施されたものをすべて選択

次に「参加時期」と「参加日数」の関係を調べてみた。いずれの時期も「半日」と「1日」を合わせた1日以内の短期プログラムが過半数に上るが、とりわけ10月以降は7割を超えている。

一方で、7月～9月は2日以上の複数日程のプログラムへの参加が約半数で(計48.6%)、1週間以上に限っても約2割を占めるなど、比較的長期のプログラムへの参加が多い。大学の夏季休暇中は複数日にわたって実施されるプログラム、授業が始まる秋以降は短期プログラム中心へと移っていった様子が見て取れる。

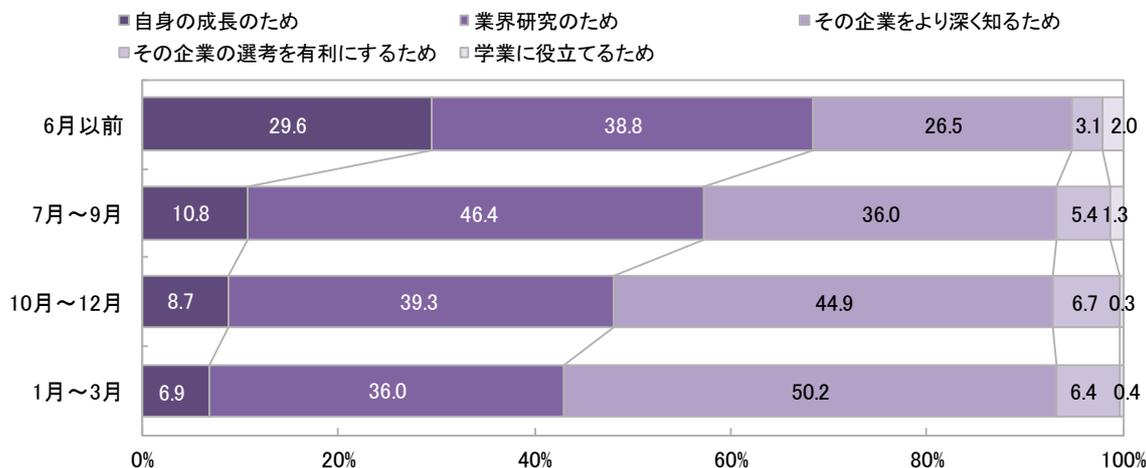
<参加日数×参加時期>



「参加目的」についても参加時期別に見てみる。6月以前は「自身の成長のため」が約3割を占めていたが(29.6%)、7月以降は約1割に減少。代わりに「業界研究のため」や「その企業をより深く知るため」の割合が増える。特に7月～9月は「業界研究のため」が約半数で(46.4%)、夏のインターンシップは業界研究の場として捉える学生が多いことが読み取れる。

また、「その企業をより深く知るため」の割合が時期を追うごとに増していくことから、業界から企業(個社)へと徐々に重心が移っていく様子が表れている。参加時期によって、インターンシップの参加目的は変化していくことがわかる。

<参加目的×参加時期>

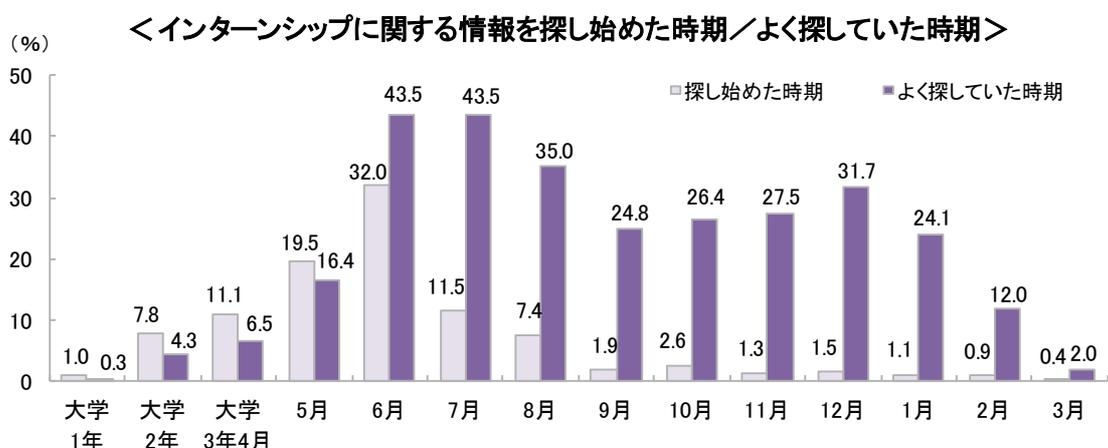


2. インターンシップ情報を探した時期

インターンシップに関する情報(募集企業)を具体的に探し始めた時期を尋ねた。「6月」が最も多く(32.0%)、6月までに7割超が情報収集を始めていた。

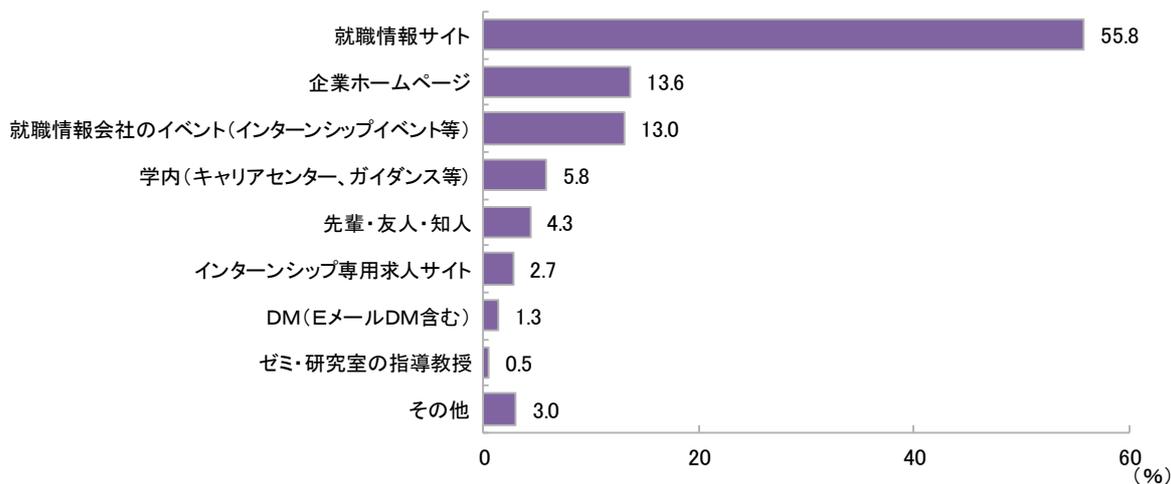
さらに、よく探していた時期を複数回答で尋ねたところ、「6月」と「7月」がともに43.5%で最も多かった。6~7月に熱心に情報収集を行い、夏休み中の参加を目指すという流れができていたことがわかる。また、「12月」にも3割を超えているが(31.7%)、春休みに実施されるインターンシップの募集情報をこの時期に探すことが多かったのだろう。

なお、参加したインターンシップを知ったきっかけは「就職情報サイト」が最多で、過半数を占める(55.8%)。



※「具体的に探し始めた時期」は単一回答、「よく探していた時期」は複数回答

＜参加したインターンシップを知ったきっかけ(分布)＞



■インターンシップを探す際(申し込む際)に困ったこと

○似たような内容の募集が多いので、絞るのに苦労する。なんらかの工夫があるとありがたい。 <文系男子>

○インターンシップで何日間に何をするのが丁寧に書かれていたら、自分が参加したいものをもっと選びやすいと思った。 <理系男子>

○知っている企業ばかり調べてしまうので、もっと自分が知らなかった企業を知りたかった。 <文系女子>

3. インターンシップ先を探す際に重視した点

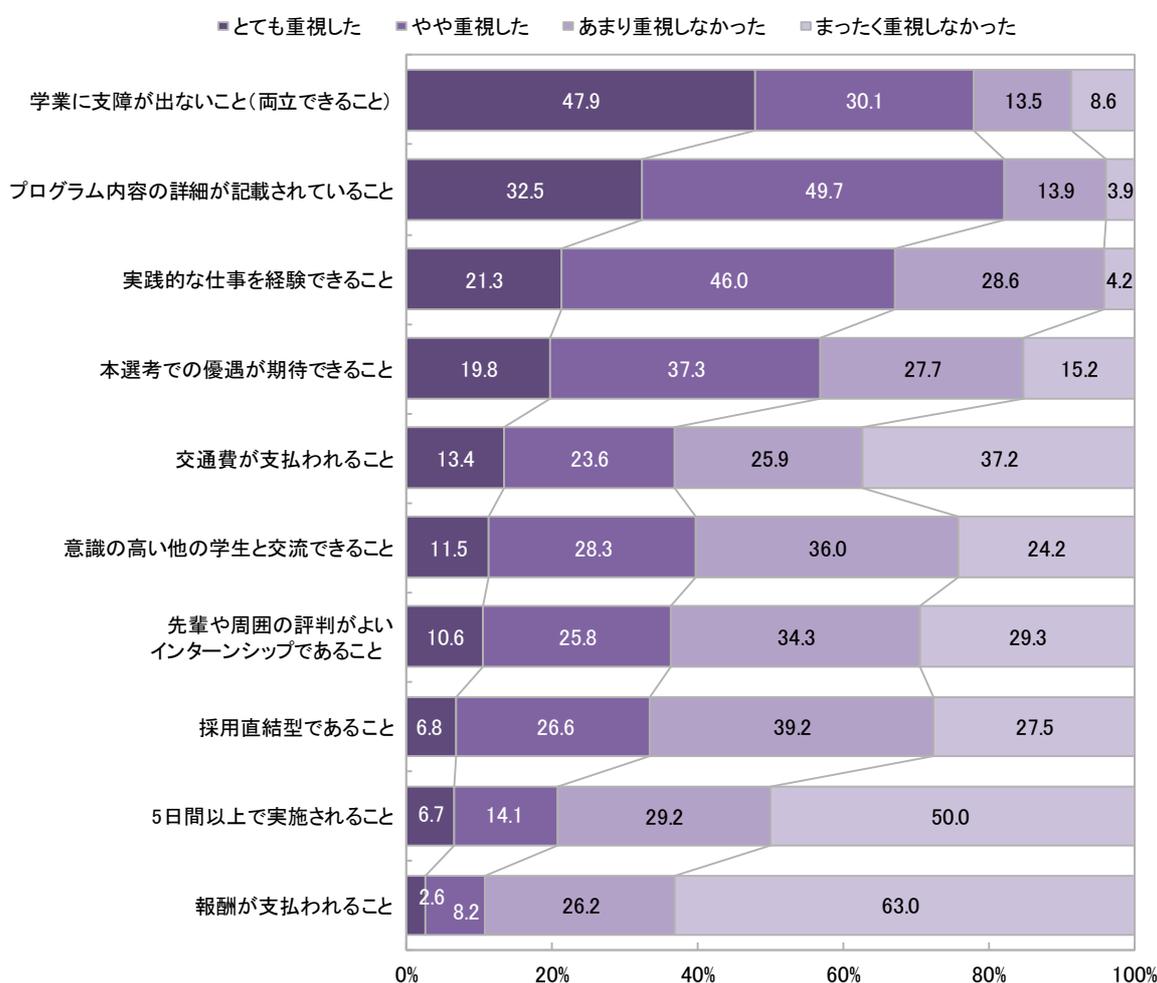
インターンシップ先を探す際の条件として項目を示し、それぞれ重視した度合いを尋ねた。

「とても重視した」という回答が最も多いのは「学業に支障が出ないこと」。半数近くが選び(47.9%)、学業との両立が多くの学生にとっていかに重要視されているかがわかる。

「とても重視した」と「やや重視した」を合計してみると、最も多いのは「プログラム内容の詳細が記載されていること」で、8割を超える(計82.2%)。内容が曖昧なインターンシップを敬遠する学生が少なくないことが読み取れる。ここに「実践的な仕事を体験できること」(計67.3%)が続くが、仕事体験を伴う実践的なプログラムは現状ではかなり少ないのが実態だ。

「本選考での優遇が期待できること」までが、重視する学生の割合が半数を超えている(計57.1%)。

<インターンシップ先を探す際(申し込む際)に重視したこと>



■インターンシップを探す際の条件

○職場受け入れ型であり、実務体験ができること。また、適性を見極められること。 <文系女子>

○職種内容が理解できることを期待した。本当は優遇を期待したが、企業が隠すのでよくわからない。 <文系男子>

○事前選考があり、2日以上であれば懇親会がしっかりとられている場合が多く、社員との交流も多く取れるので、その点は重視していた。 <文系男子>

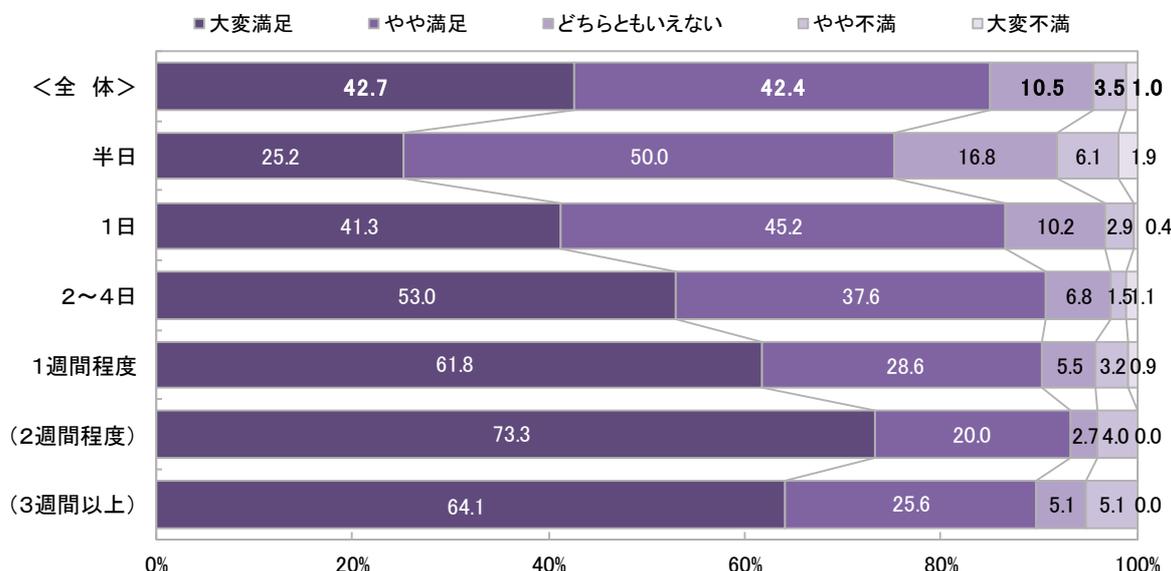
○理系の院生ということで、研究に支障をきたさないようにすることを最重要に考えました。 <理系女子>

4. インターンシップの満足状況

インターンシップに参加した満足度を尋ねたところ、「大変満足」が42.7%と4割強。「やや満足」(42.4%)とあわせると8割を超え(計85.1%)、総じて満足度は高い。ただし、実施内容や時期により違いが見られる。「参加日数別」「プログラム別」「社員との接点有無別」「成長実感別」の4つの指標でデータを紹介したい。

まず、参加日数別。「大変満足」の割合に注目してみると、「半日」は25.2%、「1日」は41.3%と半数に満たない。これが「2~4日」の複数日程になると半数を超え(53.0%)、「1週間程度」は6割を超える(61.8%)。複数日程のものは「やや満足」を合わせると9割を超え、満足度は日数が増えるほど高くなる傾向が見られる。(2週間以上のものは、参加者が限られるため参考値)

<満足度(参加日数別)>

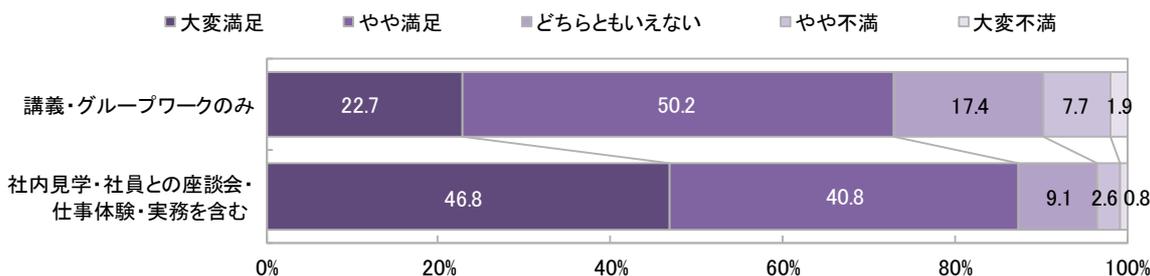


*2週間以上のものは、該当数が少ないので参考値

次に、参加したプログラム別に見てみる。「講義・座学」「グループワーク」の組み合わせで実施されるインターンシップが主流であることは先述の通りだが(2ページ)、「講義・グループワークのみ(いずれか、または両方)」の場合と、それ以外の内容を含む場合に分けて、満足度を比較した。

「講義・グループワークのみ」では「大変満足」が22.7%であるのに対し、「社内見学・社員との座談会・仕事体験・実務を含む」ものでは4割を超え(46.8%)、2倍以上になる。実際に職場の雰囲気を感じ取ったり、実態に近い情報を得たりして、企業理解も進み、満足度が上がるのだろう。

<満足度(プログラム別)>

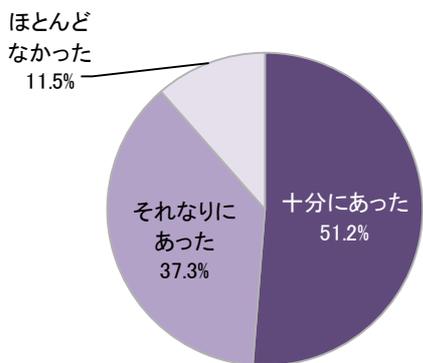


社員との接点と満足度の関係はどうだろうか。

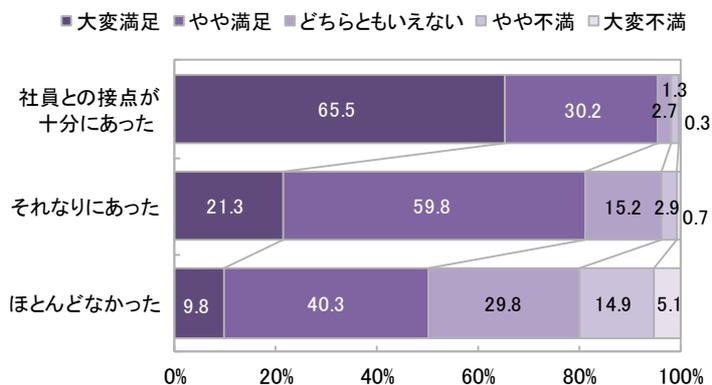
インターンシップ期間中に、社員との接点が「十分にあった」ものは約半数で (51.2%)、「それなりにあった」が 37.3%。これを、プログラムへの満足度と掛け合わせると、社員との接点が「十分にあった」ものにおいては「大変満足」が 6 割強 (65.5%)。「やや満足」(30.2%) と合わせると 9 割を超える (計 95.7%)。「それなりにあった」ものでも、満足の合計は約 8 割 (計 81.1%) と高いものの、「大変満足」は 2 割程度にとどまる (21.3%)。

社員との接点が「ほとんどなかった」ものにおいては、「大変満足」は 1 割に届かず (9.8%)、参加中にどの程度社員と接点をもつことができたかが、満足度に大きく影響していることがわかる。

＜社員との接点＞



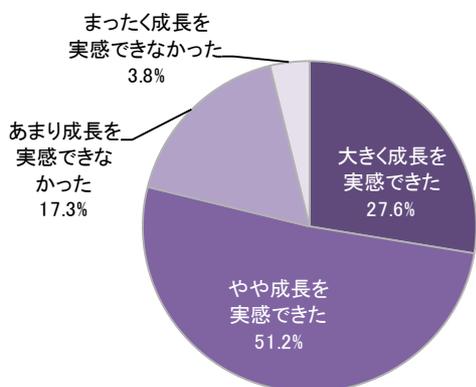
＜満足度 (社員との接点有無別)＞



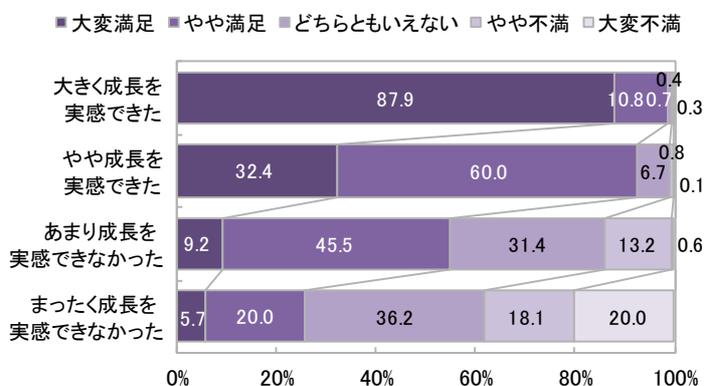
同様に、「インターンシップ経験による成長実感別」に満足度を見てみる。「大きく成長を実感できた」インターンシップは満足度が圧倒的に高く、「大変満足」が 9 割近くに上る (87.9%)。「やや満足」と合わせると 98.7%。

一方、「成長を実感できなかった」と評価するインターンシップについては、満足度は非常に低い。参加目的に「自身の成長のため」を挙げる学生は決して多くはなかったが、それでも参加したことで何らか成長を実感できないと、満足できないことがわかった。

＜インターンシップ経験による成長＞



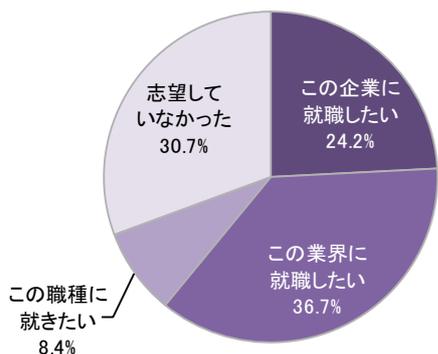
＜満足度 (成長実感別)＞



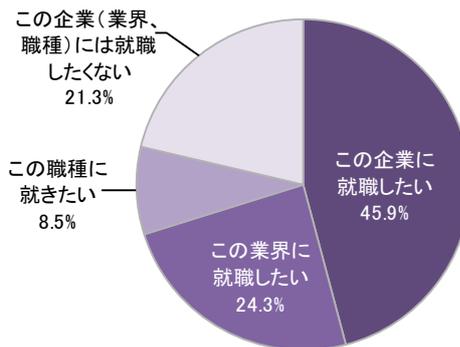
5. インターンシップ参加前後の就職志望度の変化

インターンシップの参加前後で、その企業への就職志望度がどう変化したかを調べてみた。インターンシップ参加前は「この企業に就職したい」は4分の1未満だったが(24.2%)、参加後は45.9%へと、20ポイント以上増えている。実際に接点を持つことで、就職先として意識したり、志望する度合いが高まったりしたと考えられる。

＜インターンシップ前の就職志望度＞



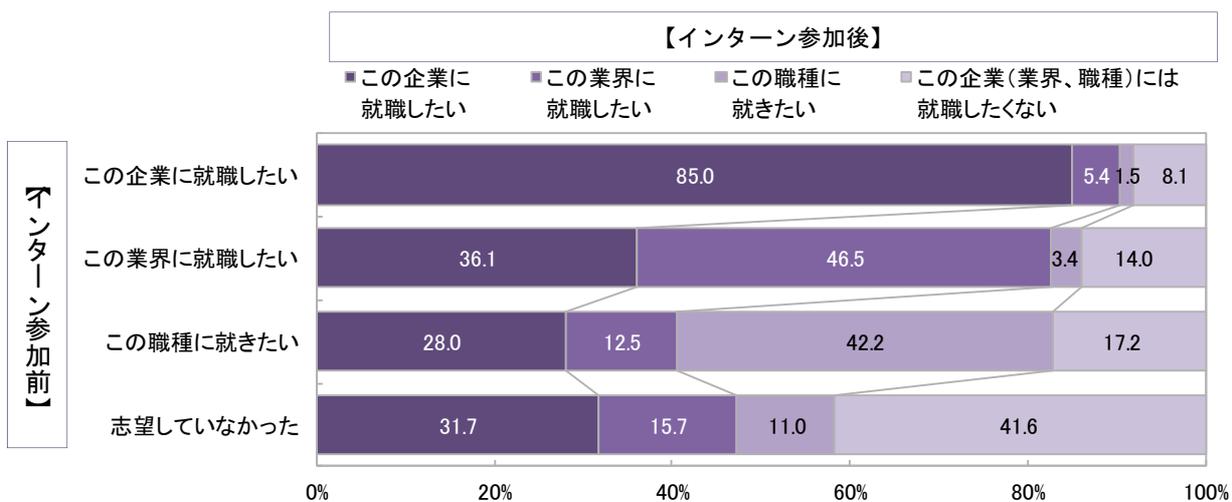
＜インターンシップ後の就職志望度＞



さらに、インターンシップ参加前の就職志望度ごとに、参加後の志望度を見てみる。参加前に「この企業に就職したい」と回答したものでは、参加後も「この企業に就職したい」と回答する割合が85.0%と極めて高い。「この企業(業界、職種)には就職したくない」に転じた割合はわずか8.1%だった。

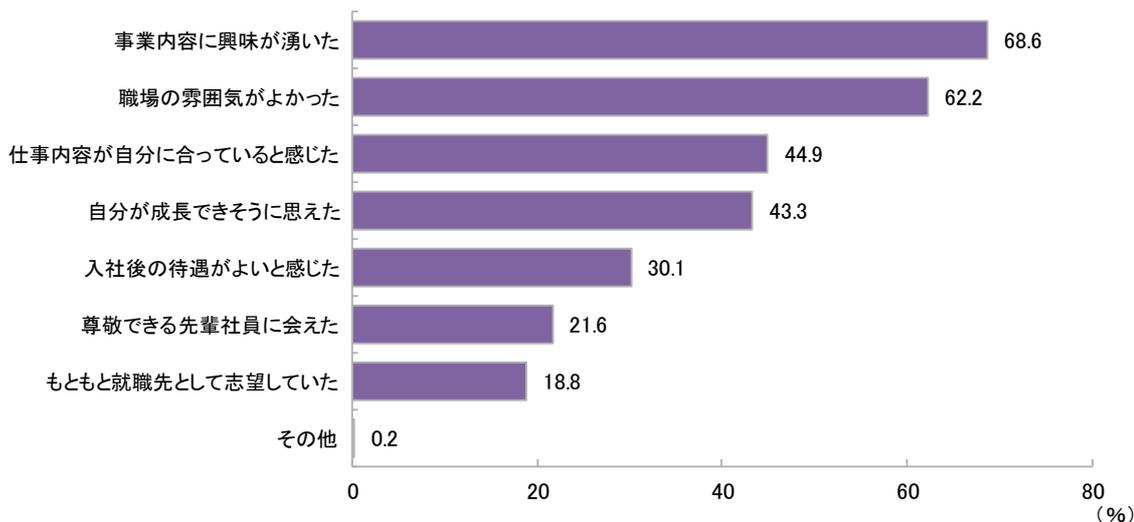
一方、参加前には「志望してなかった」と回答したもののうち、参加後に「この企業に就職したい」に変化したのは約3割(31.7%)。「この業界に就職したい」は15.7%。インターンシップに参加することで志望企業や志望業界となった割合は47.4%に上った。

＜インターンシップ前の就職志望度×参加後の就職志望度＞



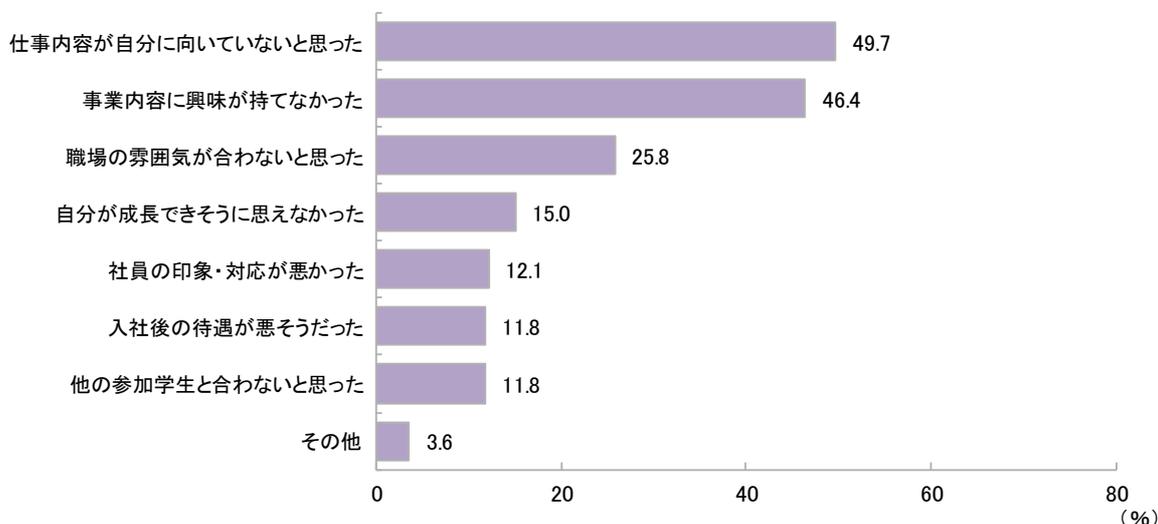
インターンシップ後にその企業に就職したいと感じた理由を尋ねたところ、最も多かったのは「事業内容に興味があった」(68.6%)。続く「職場の雰囲気がよかった」も6割台で(62.2%)、多くの学生が選んだ。「仕事内容が自分に合っていると感じた」は4割台にとどまり(44.9%)、仕事内容よりも事業内容や雰囲気重視という結果は、就業体験を伴う実践的なプログラムを経験する学生が少ないことに起因していると思われる。

＜その企業に就職したい理由＞



一方で、その企業に就職したくない理由を見ると、「仕事内容が自分に向いていないと思った」が最も多く、約半数(49.7%)。「事業内容に興味を持てなかった」(46.4%)が僅差で続く。「職場の雰囲気が合わないと思った」(25.8%)も比較的高く、様々な角度から自分に合う企業であるかを見極めていることがうかがえる。企業側は、より実務に即したプログラムを提供することで、ミスマッチの少ない、質の高い採用母集団形成につなげることが期待できるだろう。

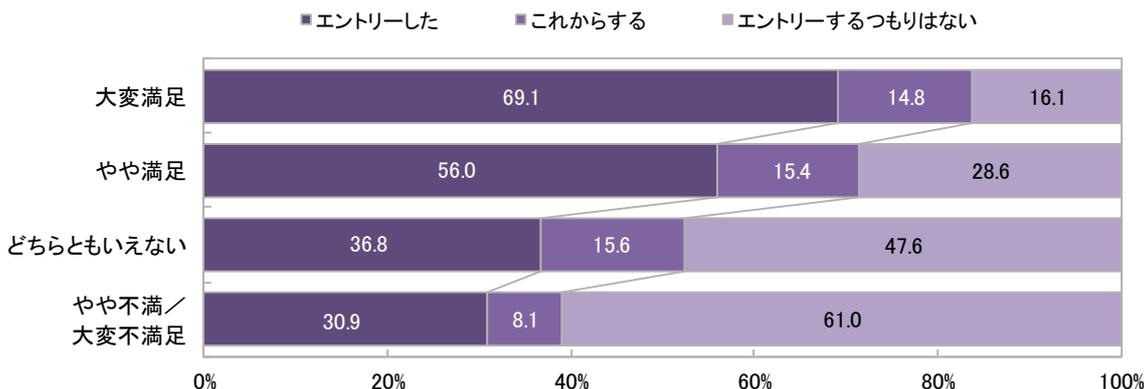
＜その企業に就職したくない理由＞



6. インターンシップ参加企業への就職エントリー

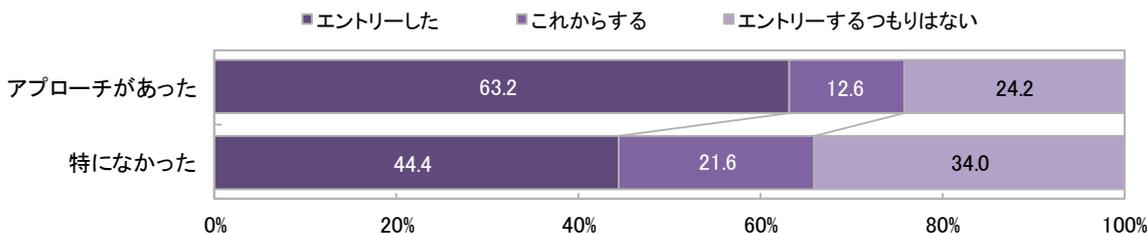
参加したインターンシップの「満足度」と「就職エントリーの有無」との関係性を調べた。満足度が高いインターンシップほど、就職活動が始まってからその企業に「エントリーした」という割合が高く、「大変満足」では「エントリーした」が約7割(69.1%)。逆に満足度の低いもの(やや不満足/大変不満足)では「エントリーするつもりはない」が6割を超えている(61.0%)。インターンシップの満足度の高さは、志望度だけでなく、実際の就職エントリーにもつながっている。

＜就職エントリーの有無×満足度＞

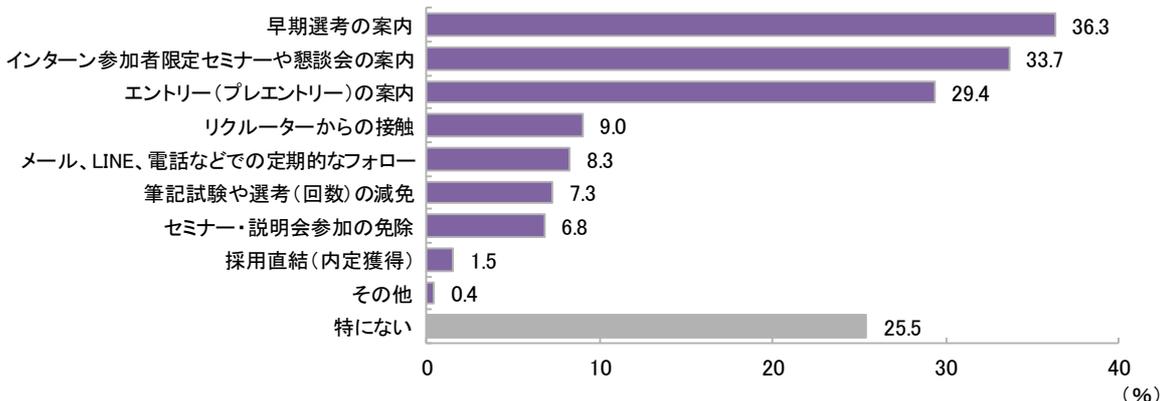


また、「就職エントリーの有無」を「インターンシップ参加後のアプローチ・優遇の有無」別にも見てみた。参加企業から何らかの「アプローチがあった」場合、その企業に「エントリーした」は6割超に上り(63.2%)、「特になかった」場合(44.4%)を大きく上回った(18.8ポイント差)。インターンシップそのものの満足度だけでなく、参加後のフォローやアプローチの有無も、エントリーに大きく影響を与えていることがわかる。

＜就職エントリーの有無×参加後のアプローチ・優遇の有無＞



＜参加後のアプローチや優遇＞

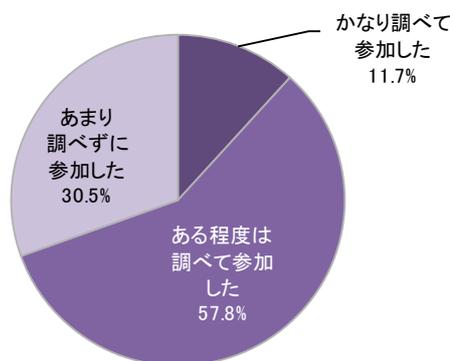


7. インターンシップ参加前の企業研究

参加にあたって、あらかじめ企業研究をして臨んだかどうかを尋ねてみた。「かなり調べて参加した」(11.7%)、「ある程度は調べて参加した」(57.8%)を合わせると約7割(計69.5%)。大半の学生は事前に企業研究をした上で参加していたようだ。コメントからは、企業ホームページや就職情報サイトなどインターネット上の情報を中心に、様々な角度から情報収集を行っている様子がうかがえる。

「あまり調べず参加した」は3割(30.5%)。インターンシップの場で企業の概要を把握したいと考える学生も一定数いたことが読み取れる。ただし、事前に調べておけばより有意義になったと感じる声も少なくない。

<インターンシップ参加前の企業研究>



■インターンシップ参加前に調べたこと／調べておけばよかったと思うこと

【事前に調べたこと】

- 企業理念、事業内容や職種など。事前選考があった企業については、中期経営計画なども見た。 <文系女子>
- 企業のホームページの熟読。インターンシップ内容に関わりそうな部分はとくにしっかりと読んでおいた。また疑問があればメモしていた。 <理系女子>
- 具体的な業務や、社員の1日の仕事の流れなど。 <文系男子>
- 社員座談会が設けられていることも多かったため、質問したい事を事前にまとめておきました。 <文系女子>
- 企業の主な生産品やその市場におけるシェア等を把握するようにした。また、具体的な事業内容も目を通し、自分の興味ある部分を探した。 <理系男子>
- 同業種間でのその企業の立ち位置や、組織の構成など。また、欲しい人材やビジョンなど。 <文系男子>
- 仕事内容や社員へのインタビューなど。 <文系女子>
- 就職情報サイトと企業ホームページに書いてあることは一通り見た。 <文系女子>
- 合説で受けた説明に加え、もらったパンフレットやホームページで事業内容や社風を調べた。 <理系男子>

【調べておけばよかったと思うこと】

- 会社や業務の説明はあったが、業界についてはあまりなかった。そのため、基礎ができていない状態で聞いても理解できない部分があった。 <文系女子>
- 1dayだったのであまり調べなくてもいいかと思っていたが、他校の学生はそれなりに企業に対しての知識があり、やってみたいことなどを発言していた。 <文系女子>
- 詳しい職種とそれに対する自分の適性など。 <理系女子>
- 座談会のようなものがあるので、質問をするためにある程度は事前調査が必要であると思った。 <文系男子>

8. インターンシップに参加しやすい日程

インターンシップ参加者が増加する中、学業への配慮が一層求められているが、学期中のインターンシップに参加しやすい曜日・時間帯を尋ねた。土曜日、日曜日の昼間はそれぞれ7割を超えるのに対し、平日の昼間はいずれも2割前後にとどまる。夕方以降になると3割台まで増えるが、それでも半数を超える曜日はなく、土日や長期休暇中の開催が望ましいことが表れている。文理別で大きな差は見られなかった。

＜インターンシップに参加しやすい日程＞

		(%)								
		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	学期中は不可	
全体	昼間	21.0	17.4	21.5	19.5	20.7	72.7	72.4	16.8	
	夕方以降	35.3	34.1	37.0	35.4	39.9	59.3	57.4	20.4	
文系	昼間	20.0	16.0	21.3	18.3	18.8	73.1	71.9	17.5	
	夕方以降	36.2	35.8	39.4	35.8	39.4	57.1	55.7	20.0	
理系	昼間	22.5	19.4	21.8	21.2	23.4	72.0	73.2	15.7	
	夕方以降	33.8	31.7	33.5	34.8	40.6	62.5	60.0	20.9	

■参加したインターンシップの良かった点／不満に思った点

【良かった点】

- 実際どんな仕事をしているかを体験できて、ディスカッションだけじゃなかったのが良かった。空き時間にたくさん社員とお話できて、情報をたくさん得られた。 <理系女子>
- 工場見学で、実際にものを作っている過程を見ることができ、とても興奮したし、志望度が高まった。 <文系女子>
- 本格的な営業体験ができ、フィードバックも個人とチームどちらにもあって参考になった。 <理系女子>
- 昼食時にも、1グループに社員1人がついて、会社、転職のことなど、疑問をすべて聞いた。 <文系男子>
- 実務的な仕事を経験でき、自分が働く姿が鮮明にイメージでき、エンジニアとして自分の役割が認識できた。 <理系女子>
- 3日目の最後に個人面談があり、グループワークの参加態度などフィードバックをもらったのはすごくありがたかった。企業・業務内容研究ができた上、自身の成長も感じられた内容だった。 <文系女子>
- 最先端の測定をさせてもらい、大学の研究との違いが分かり、非常に勉強になったし、達成感も得られた。また、インターンの同期とも仲良くなれた。 <理系男子>
- 生産技術開発職は、実験ばかりするものと考えていたが、実際には現場とのコミュニケーション力が必要であるとわかった。想像と違うことを認識できて良かった。 <理系男子>

【不満に思った点】

- 参加者80人ほどに対して人事社員1人だけと手薄さを感じた。 <文系男子>
- 仕事体験の機会はなかったので、実際にどのように働いているかのイメージは少ししづらかった。 <理系男子>
- ワークをやって答えを聞いただけ、振り返りやフィードバックもなく、社員との接点もなかった。 <文系男子>
- 会社説明をしている最中に会場後方で社員が雑談をしていてイライラした。さらに、まったく業務と関係のないゲームをやらされた。 <文系女子>
- 1つ1つの内容が薄く、インターンシップというよりも3日間かけた会社説明会だった。 <理系女子>
- 不要と言われていた専門知識が、かなり重要だった。 <文系男子>